

# 令和元年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

## 第6学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<p>・1学期の達成率は74%であった。話す題材について詳しく掘り下げたり、明確に伝わるように話す順序を工夫したりすることに課題がある。また、相手が話していることの要点をとらえながら話を聞いた、最後まで話を聞いたことが課題である。 【話すこと・聞くこと】</p> <p>・1学期の達成率は89%であった。文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力は高まりつつある。一方で、文章の細かな内容の読み取りや、読み取ったことを表現することに課題がある。 【読むこと】</p> <p>・1学期の達成率は83%であった。漢字の細部を間違えたり、同音異義語・同訓異義語と混同したりする傾向がある。漢字の意味を確かめながら繰り返し学習するなど、継続した学習が必要である。また、語彙を増やすこと、言葉の特徴やきまりについて理解を深める必要がある。 【言語事項】</p>	<p>・日直のスピーチなどを活用して、継続的に話す場面を設ける。その際には、具体的な例を挙げて話す、話す順序を考えるなど、構成の観点を示すことで構成の工夫ができるようにする。また、聞く際にも、聞いたことを交流させる場の設定や、話者の工夫に着目できるような観点を明示することで意識を高める。</p> <p>・文章の読み取りに際し、根拠を文章中に求めるようにすることで、文章の要点や人物の心情を表す細やかな表現にも着目できるようにする。また、単元の終末の活動を最初に提示することで、目的をもって読み取り、読み取ったことを表現する活動を充実させていく。</p> <p>・新出漢字は定期的に小テストを行う。漢字50問テストは合格点を設定し、習得できるまで繰り返し再テストを行う。また、漢字の学習の際に、辞書を使って単語・短文作りに取り組んだり、紛らわしい漢字や間違えやすい部分等も確認したりすることで、語彙を増やし、漢字を意味で覚えられるようにする。</p>
社会	<p>・1学期の達成率は85%であった。出来事等が起きた理由を資料から考え、自分の言葉で説明することが苦手な児童が多い。 【思考・判断・表現】</p> <p>・1学期の達成率は94%であった。年表や資料から、キーワードを見付け出したり、資料同士を比較して考えたりする活動に慣れてきている。 【技能】</p> <p>・1学期の達成率は61%であった。歴史学習に関する関心は高いものの、社会科用語の定着が不十分である。 【知識・理解】</p>	<p>・問題解決型の学習を積極的に取り入れ、児童自身が資料から、時代背景を捉えたり、ある出来事起きた理由を考えたりする活動を行えるように、意図的・計画的に授業を行う。また、資料から読み取れることはグループワークやペアワークで行い、自分の考えを表現するときには個人で行うなど、学習の形態も工夫する。</p> <p>・ICT機器等を活用し、根拠をもち考えるための材料として資料を活用するという意識を児童がもてるように、指導・助言を行っていく。また、1つの資料だけでなく、複数の資料から自分の考えを導く活動を引き続き行い、資料活用の力をさらに高める。</p> <p>・資料等の読み取りで学んだ内容と社会科用語が結び付くように板書やノートでも表や図と関連させて整理したり、授業の始めには前の時間の学習内容を復習したりするなどして、知識の定着を図る。</p>

<p style="text-align: center;"><b>算 数</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の達成率は43%であった。文章を正確に読み取り、立式することにまだ不安のある児童が見られる。また、分数や小数の割合で、数の関係を正確に考えて式に表すことのできない児童が多い。 【数学的な考え方】</li> <li>・ 1学期の達成率は74%であった。中でも分数の割り算が苦手な児童が見られる。乗法と除法が混ざることによって混乱する児童や、約分が正確にできない児童も見られる。 【技能】</li> <li>・ 1学期の達成率は85%であった。中でも文字と式では、正答率が低い。xの値に対応するyの値を求める際に記号を付けてしまうことや場面をxとyの関係式に表すことが苦手な児童が見られる。 【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉による読解に頼らず、場面を数直線図などに表し、確実に数の関係を視覚的に捉える活動を増やす。割合の場面では、文中の「基準量」「比較量」「割合」を把握させ、何を求めるかを明確にするようにする。</li> <li>・ 乗除混合計算等、達成率の低い分野に特化した問題に多く取り組ませる。レベルアップタイムの時間を活用する。その際には、東京ベーシックドリルを活用し、反復練習による基礎・基本の徹底を図る。</li> <li>・ 定義を覚えるだけでなく、集団検討などを通して児童自ら定義を導く活動を多く取り入れる。場面を式に表す際に、図に表したり、ICT機器を活用したりして視覚的に理解しやすくする。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>理 科</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の達成率は、73%であった。追求する問題に対して、自らの生活経験や既習の知識と結び付けて予想したり、考察したりする力に課題が見られる。 【思考・表現】</li> <li>・ 1学期の達成率は、75%であった。実験には、興味・関心をもち取り組むことができるが、実験器具を正しく操作し、実験を行うことは、まだ不十分である。 【技能】</li> <li>・ 1学期の達成率は、73%であった。観察・実験を通して学習した内容と科学的な用語等がしっかりと結びついていない児童が多い。特に「体のつくりとはたらき」など、生命分野における知識の定着は児童により大きな差が見られた。 【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果の予想や仮説との比較・検討すること、他の児童の考察を比較・検討することで、多面的に考え、より妥当な考えを作り出せるようにしていく。</li> <li>・ 実験の前にしっかり実験の方法や器具の扱い方を確かめながら、取り組むようにさせる。実験は、小グループ(3~4人)で行うが、分担して実験を行うだけでなく、全員が同様の経験ができるよう配慮する。</li> <li>・ 人体に関することなど、実際に確かめたり体験したりしにくい事象には、電子黒板等のICT機器を使う。視聴覚資料等も活用して理解を深めさせ、知識の定着を図る。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>体 育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームで作戦を深めたり、学び合ったりする際に、励ましや応援などの優しい言葉かけが多くみられるが、運動の動きのポイントの理解が不十分のため、技能の向上に向けた言葉かけが少ない。 【思考・判断】</li> <li>・ それぞれの領域での技能のポイントを把握できず、運動の特性(楽しさ)を十分に味わえない児童への手立てが課題である。 【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と技が上手にできるコツを教え合ったり、技のできばえについて助言し合ったりする場面を計画的に設定していく。また、児童が運動の特性や動きのポイントを理解させるために、資料の提示や学習カードの工夫、ICTの活用を引き続き行う。</li> <li>・ 運動がもつ楽しさを味わえるような個々の児童の能力に応じたスモールステップの場の設定や補助運動から主運動につながる展開を考えていく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>家 庭</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に家庭科への関心は高く、裁縫や調理実習に前向きに取り組む児童が多いが、学習した知識や技能を実際の生活に生かす力は十分とはいえない。 【関心・意欲・態度】</li> <li>・ 生活経験の差により、技能面での個人差が大きい。 【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を明確にし、一人一人が達成感や充実感が味わえるようにめあてや活動を工夫することで、実際の家庭生活にも生かしたいと思えるようにする。</li> <li>・ 調理や裁縫など技能面で差の出やすい活動は、個別に支援すると同時に、ペアを組んで教え合ったり班で教え合ったりし、問題解決が図れるようにする。</li> </ul>